

「教育力」尺度の開発と 予備調査の実施案

2005年3月2日

21世紀大学経営協会
大学評価委員会

1 . 教育力評価の開発視点

U-MA21大学評価の基本姿勢

教育力評価の開発視点

質的向上の改革努力を促す



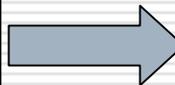
水準把握やランキングではなく、
教育力強化に向けた改革の方向性が
示されること

大学の規模の差や
既存評価にとらわれない



教育の実態（組織・制度・状態）と
付加価値形成力に基づいた
評価であること

一般機能型ではなく
重点機能型を指向する



大学設置基準の項目全般を評価す
る大学自身の評価ではなく
ステークホルダーに教育ニーズへ
の対応状況や効果を聞く

2 . 教育力評価の把握案 (1)

教育力評価の検討分野

大学自身 測定項目に関する現在の大学組織等の制度・状態・実態
の事実を点検

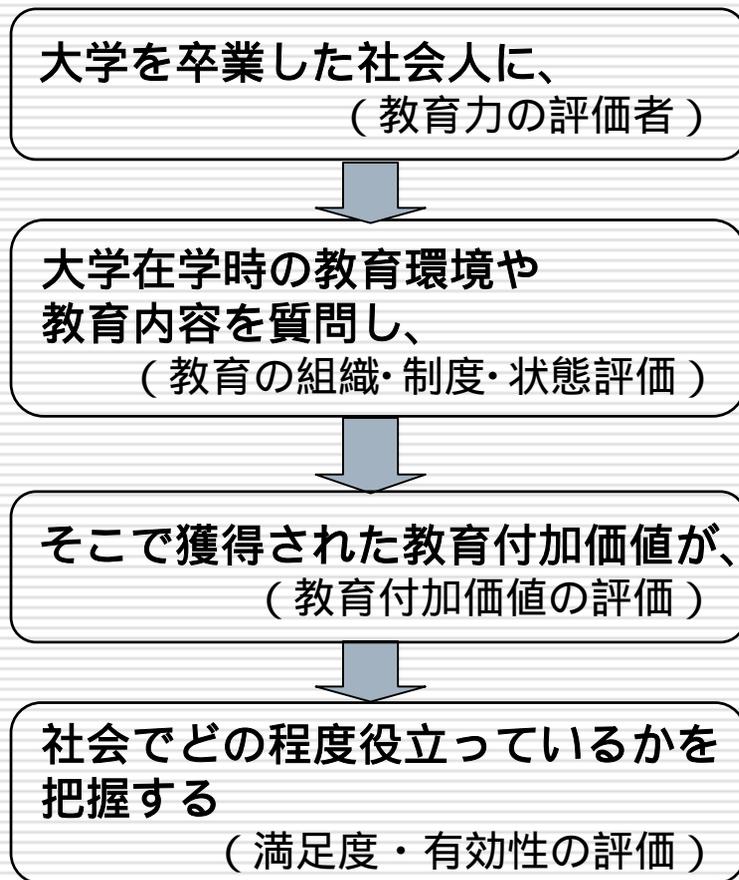
ステークホルダー

- ・ 大学教育関係者
- ・ 高等学校教育関係者
- ・ 企業・団体関係者
- ・ その他学識経験者
- ・ 在学生
- ・ 卒業生

その他 在学生・卒業生の共通成績 (卒業資格認定、卒業時共通試験)

2. 教育力評価の把握案 (2)

本調査における評価方法



* 教育力の捕らえ方 (第21回天城学長会議報告より抜粋)

- ・ 私立大学連盟の会議では、卒業5年目の卒業生に評価させるという観点も出ている

- ・ 大学評価とは・・・入ってきた学生に教育を通じてどのくらい付加価値をつけられるかという問題

- ・ 社会が大学に対してこういう人間がほしいといってくれない限りは、個性化も何もない

- ・ 学生による評価と同時に、社会から卒業生がどう評価されているかという視点も必要

3 . 教育力の判定指標 (1)

教育力の判定要素

教育充実度

母校の大学教育で評価できる点
(実態 - 組織・制度・状態)

大学の理念や教育目的

教育カリキュラム

教職員との接点

施設・設備

社会貢献・産学連携・国際交流

学生生活への配慮・就職進学支援

教育付加価値度

習得したこと / 社会に出て役立ったこと
/ もっと学んでおきたかったこと

基本的な知識・一般教養の習得

専門的な知識の習得

専門的な技能・技術の習得

外国語の習得

対人基礎能力

思考・判断力

自己啓発・創造力

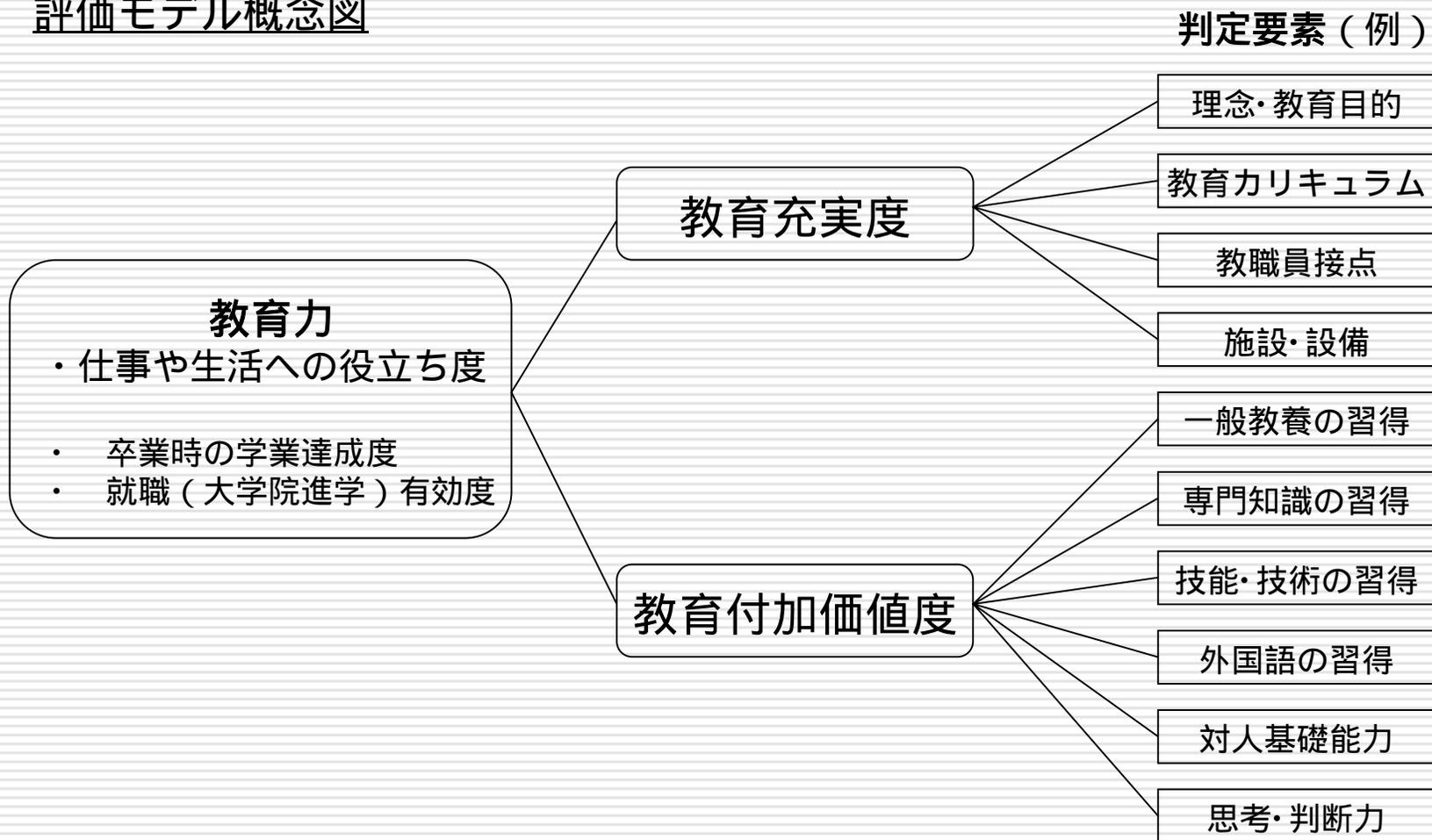
各種資格取得による知識

進路の知識

地域や社会との交流・人脈づくり

3 . 教育力の判定指標 (2)

評価モデル概念図



4 . 調査内容 (1)

目 的

大学在学時の教育環境・内容を質問、これらの教育効果が社会でどのように役立っているかを把握する。

大学生活を通じて形成されたと考える知識教養の認識とその要素の社会における有用性を確認する。

調査概要

調査手法 インターネットによる調査

調査対象 当社インターネットパネルから「25～30歳の大学（院）卒業者男女」

サンプル数 約1500サンプル

結果分析 大学タイプ別(私立・国公立別、出身学部別、その他区分)に、受けた教育内容と社会における成果を測定する。

4. 調査内容(2)

現在

卒年、就職年

業種・業態、職種

- ・金融・財務/技術・開発・研究/情報処理/接客・サービス/国際/企画・事務/
営業/医科・歯科/官公庁・自治体/その他

売上・従業員規模

在学時

大学区分

- ・大学・大学院・短大
- ・国公立・私立
- ・文系・理系・医科歯科系・業際系
- ・総合・単科

学部・学科

- ・文系・理系・医科歯科系・業際系

5 . 教育力調査の導入ステップ

